

30. 抜歯

<到達目標>

- ・ 歯科医師の指示に従える
- ・ ステップごとに報告できる
- ・ 患者にこれから行うことの説明ができる
- ・ 必要器材を用意できる
- ・ 適切なバキューム操作ができる
- ・ 麻酔の補助ができる
- ・ 手術野の確保ができる
- ・ ガーゼによる圧迫止血ができる
- ・ 術後説明ができる
- ・ 後片付けができる

<設定場面>

患者は左下奥歯の動揺と歯肉出血を主訴に来院した。左下7番の慢性歯周炎と診断し、保存不可能であったため、本日抜歯することとなった。

<治療手順>

1. 患者の誘導と説明

歯科医師：衛生士（助手）に患者の誘導と説明を指示する。

衛生士（助手）：患者の誘導し、健康状態を確認した上で、処置内容を説明して同意を得る。

2. 麻酔 必要器材：エックス線フィルム、麻酔セット

歯科医師：衛生士に麻酔をする旨を伝え、補助を指示する。

助手にエックス線フィルムと麻酔セットの用意を指示する。

助手：エックス線フィルムと麻酔セットを準備する。

歯科医師：必要部位に麻酔を行う。

衛生士：麻酔の補助を行う。

3. 前準備 必要器材：滅菌ゴム手袋、滅菌ガーゼ、外科用サクシヨン

歯科医師：助手に抜歯の準備を指示する。

助手：必要器材を準備する。

4. (必要に応じて) 環状靭帯の切除 必要器材：彎刃刀、ルーツェピンセット
歯科医師：麻酔の奏効の確認を衛生士に指示する。

衛生士：麻酔の奏効を確認する。

歯科医師：環状靭帯をメスで切離する。

衛生士：出血をルーツェピンセットで把持した滅菌ガーゼで拭う。

5. 抜歯 必要器材：抜歯鉗子、エレベーター

歯科医師：抜歯鉗子で歯頸部を把握し、ゆっくり動かし脱臼させ抜去する。

場合によってはエレベーターで脱臼させた後、抜歯鉗子を使用して抜去することもある。

衛生士：タイミングを見てガーゼで出血を拭う。

また必要があれば患者の下顎角部を左手首付近で固定する。

6. 不良肉芽の搔爬摘出 必要器材：鋭匙、滅菌ガーゼ、外科用サクシオン
歯科医師：不良肉芽を鋭匙で搔爬する。

嚢胞がある場合には摘出する。

衛生士：搔爬された不良肉芽を拭掃する。

出血はサクシオンで吸引する。

7. 抜歯創の縫合 必要器材：縫合セット (持針器、縫合針、縫合糸、縫合ばさみ)
止血剤

歯科医師：衛生士、助手に縫合の準備を指示する。

助手：必要器材を用意する。

衛生士：持針器に縫合用の糸・針をつける。

歯科医師：遊離している歯肉から先に針を通し、歯肉を縫合する。

衛生士：口角の牽引、舌の圧排など軟組織の排除を行って視野を確保し、縫合操作を補助する。

はさみを取り、術者が緊張している糸を結節から 3mm 程度残して切る。

歯科医師：術後出血が予想される場合は止血剤を抜歯窩に挿入する。

8. 止血

歯科医師：衛生士に患部の圧迫止血を指示する。

衛生士：患部を十分に圧迫できるよう滅菌ガーゼをたたんで、咬んでもらう。

抜歯終了時間を確認しておく。

止血中に抜歯後の注意、術後の疼痛に対する鎮静剤の服用方法などを説明しておく。

歯科医師：止血に必要な時間が経過後、圧迫ガーゼを取り除き、止血を確認する。

衛生士：軽く洗口してもらい、退出を促す。

9. 後処置

歯科医師：衛生士に術後説明を指示する。

衛生士：処置内容と麻酔覚醒時間などの説明と投薬薬剤の服用方法を改めて説明する。

次回来院日時の約束と処置内容の説明を行う。

助手：後片付けをする。

30. 抜歯

必要器材

- ①エックス線フィルム
- ②麻酔セット
- ③滅菌ゴム手袋
- ④滅菌ガーゼ
- ⑤外科用サクション
- ⑥彎刃刀
- ⑦ルーツエピンセット
- ⑧抜歯鉗子
- ⑨エレベーター
- ⑩鋭匙
- ⑪縫合セット (持針器、縫合針、縫合糸、縫合ばさみ)
- ⑫止血剤